

## 事業成果報告書

### 〔取組Ⅰ〕 都道府県教育委員会による小中一貫教育推進に関する取組

1. 都道府県教育委員会名 : 富山県教育委員会
2. 取組の名称 : 平成30年度「小中一貫教育推進事業」

#### 3. 事業の実績

##### (1) 事業のねらい

本県においては、新富山県教育振興基本計画の基本施策3「子どもの健やかな成長を支え、元気を創造する教育の推進」で主な取組の一つとして校種間連携の推進を揚げ、その一つの形として小中一貫教育の研究に取り組んでいる。協力市町村を舟橋村と高岡市の2地区に指定し、小中一貫教育の成果と課題を具体的な取組から明らかにするとともに、協力校には、学校訪問研修会等で指導・助言を行う。また、県小中一貫教育連絡協議会には、舟橋村、高岡市に加え、氷見市、南砺市など興味・関心の高い市町村やその他の市町村にも出席を促し、舟橋村、高岡市の効果的な取組を広めるとともに各市町村の情報を交換する場を設定するなど、各市町村の事情に応じて、小中連携教育に取り組むことができるようにする。さらに県教育委員会において小中一貫教育について説明するリーフレットの作成・配布により小中一貫教育を推進する。

##### (2) 事業の実施状況

- ・県教育委員会においては、先進地区の視察を行い支援体制や効果的な取組等について情報収集するとともに、県小中一貫教育調査検討チームを組織し、小中一貫教育の在り方等について検討し、取組の成果と課題をリーフレットにまとめた。
- ・舟橋村小・中学校一貫教育推進協議会や協力校の求めに応じて指導・助言を行った。また、高岡市の協力校においては学校訪問研修会等において小中一貫教育にも触れて助言した。
- ・県小中一貫教育連絡協議会を2回開催し、情報交換や指導助言を得る場となった。また、小中一貫教育研修会を開催し、中央から講師を招聘し、カリキュラム・マネジメントや全国の事例から学ぶ機会となった。

##### (3) 事業の成果

- ・新たに小中一貫教育の導入について検討する市町村が増えた。
- ・協力校における取組から、小中一貫教育の成果と課題が明らかになった。

##### (4) 今後の取組予定

- ・小中一貫教育を導入する市町村教育委員会への支援
- ・小中一貫教育に関する情報収集、調査研究と伝達
- ・カリキュラム・マネジメントについての研究
- ・小中一貫教育の成果・課題把握のための全国学力・学習状況調査等との調査研究

## 4. 取組Ⅰの実績

## (1) 取組のねらい

県内の市町村において、小中一貫教育への理解と導入が拡充するよう情報の収集や資料の作成等を行い普及啓発を図るとともに、協力市町村の取組を支援する。
--

## (2) 取組Ⅰの実施状況（平成30年度）

6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国と県との委託契約締結</li> <li>・県と協力市町村との委託契約締結</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回小中一貫教育調査検討チーム (小中一貫教育調査検討チームの予定、リーフレット作成に向けての検討)</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回小中一貫教育調査検討チーム (小中一貫教育推進ポリシーについての検討、リーフレットの内容について検討)</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回小中一貫教育調査検討チーム (小中一貫教育連絡協議会のもち方の検討、リーフレットの内容について検討)</li> <li>・第1回舟橋村小・中学校一貫教育推進協議会における助言</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回県小中一貫教育連絡協議会（協力市町村、協力校の取組について情報交換）</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先進地視察及び情報交換（静岡県沼津市）</li> <li>・高岡市「小中連携による授業公開」における指導・助言</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第4回小中一貫教育調査検討チーム (小中一貫教育連絡協議会、研修会のもち方の検討)</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回県小中一貫教育推進連絡協議会（今年度の取組の成果と課題の共有）</li> <li>・県小中一貫教育研修会の開催（小中一貫教育とカリキュラム・マネジメント）</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第5回小中一貫教育調査検討チーム (今年度のまとめ、リーフレット作成作業)</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中一貫教育リーフレット配布</li> <li>・今年度の成果と課題のまとめ</li> </ul>

## (3) 取組の成果

<ul style="list-style-type: none"> <li>・県外の先進地区を視察し、取組の成果や課題についての知見を得た。</li> <li>・県小中一貫教育連絡協議会を開催したことで、先に取り組んでいた舟橋村で得られた知見を高岡市が参考にすることができた。</li> <li>・小中一貫教育の概要や成果と課題を伝えるリーフレットを作成した。</li> <li>・リーフレットを配布したことにより、小中一貫教育へ理解が深まった。</li> </ul>
---

## (4) 今後の取組予定

<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中一貫教育を導入する市町村教育委員会への支援</li> <li>・小中一貫教育に関する情報収集、調査研究</li> <li>・カリキュラム・マネジメントについての研究</li> <li>・小・中学校の校種間交流を促すための採用・異動方針に関する調査研究</li> </ul>
--

## 5. [取組Ⅱ]を実施した協力市町村教育委員会等

通し番号	教育委員会等の名称	
Ⅱ-1	舟橋村教育委員会	
Ⅱ-2	高岡市教育委員会	

## 事業成果報告書

## [取組Ⅱ] 市町村教育委員会等による小中一貫教育の域内全域での導入に向けた取組

通し番号	Ⅱ - 1
------	-------

1. 市町村教育委員会等の名称 : 舟橋村教育委員会

住所	富山県中新川郡 舟橋村佛生寺55番地
代表者職・氏名	教育長 高野 壽信

2. 取組の名称 : 舟橋村小中一貫教育事業

3. 取組Ⅱの実績

(1) 取組のねらい

<p>舟橋村で育ったことに自信と誇りを持ち、心身ともに健康でたくましい心豊かな子供の育成を図るため、小学校1校、中学校1校の地域性を生かし、これまで取り組んできた小中学校の交流・連携を継続し、小中一貫教育を推進する。</p> <p>具体的には、目指す子供像や研究主題を小中学校で共有し、9年間を見通した一貫した系統的・連続性のある教育の在り方の検討、確かな学力の育成を推進する。</p>
---

(2) 取組Ⅱの実施状況(平成30年度)

6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活に関するアンケートの実施(児童・生徒、保護者)</li> <li>調査内容「生活習慣及びメディア等の使用状況について」</li> <li>「みんなでチャレンジ・ノー (Know)メディアデー」の実施</li> <li>テーマ「メディアの使い方を決め自分で取り組む」</li> <li>小中合同教員研修会① 道徳互見授業研修会</li> <li>「たくましさ」をテーマとした道徳互見授業研修</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中交流活動①</li> <li>中学生から小学生へ: Knowメディアに関する出前PR: 朝の集会時</li> <li>小中合同学習①</li> <li>総合的な学習の時間「平和学習」の実施(小学校6年、中学校3年)</li> <li>小中一貫教育推進委員会実務者打合せ①</li> <li>活動事例報告書作成及び小中教員合同研修会について</li> <li>舟橋小中学校一貫教育推進協議会①</li> <li>小中一貫教育推進事業実施計画書及び実施状況について</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中学校合同教員研修会②</li> <li>取組の進捗状況報告及び活動事例報告書の作成について</li> <li>小中学校合同教員研修会③及び講演会 特別の教科「道徳」について</li> <li>講師: 富山市立楡原中学校 教頭 岡村 紀子先生</li> <li>小中交流活動②</li> <li>ふなはしまつりゴミ分別ボランティア活動(小学校4年、中学校1~3年)</li> <li>小中交流活動③</li> <li>ふれあいボランティア活動(舟橋村社会福祉協議会によるコーディネート)</li> <li>小中交流活動④</li> <li>部活動体験(小学校6年)</li> <li>「みんなでチャレンジ・ノー (Know)メディアデー」の実施</li> <li>(メディアの使い方を決め自分で取り組む)</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中交流活動⑤(中学校1年、小学校1~6年)</li> <li>総合的な学習の時間、言語活動 小学校全学年での絵本の読み聞かせ</li> <li>舟橋村図書館職員による読み聞かせ指導</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>「みんなでチャレンジ・ノー (Know)メディアデー」の実施</li> <li>テーマ「メディアの使い方を決め自分で取り組む」</li> <li>小中一貫教育推進委員会②</li> <li>活動事例報告書作成について</li> <li>中学校行事への招待(学習発表会、小学校6年生対象)</li> </ul>

11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活に関するアンケート 「家庭学習及びメディア等の使用状況把握」(児童)</li> <li>・小中合同学習② 総合的な学習の時間「平和学習」の実施(小学校6年、中学校3年)</li> <li>・小中一貫教育全国サミットinおおつち 視察</li> <li>・小中合同だよりの発行</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乗り入れ授業の実施(保健体育:中学校教員→小学校5年・2回)</li> <li>・地域学校保健委員会・小中合同学習③(小学校5年、中学校2年)</li> <li>総合的な学習の時間及び言語活動「Knowメディア」に関する学び 講演 臨床心理士 丸田 知明 先生「メディア利用と脳の関係」</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中一貫教育に関するアンケート(児童・生徒、保護者、教員)</li> <li>・小中交流活動⑥(小学校6年、中学校1年) メッセージ交流と新入生説明会の案内状・回答⇔感想・質問の交換</li> <li>・小中合同学習④中学校新入生説明会時 英語「ゲームによるコミュニケーション活動」(小学校6年、中学校1年)</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中一貫教育推進委員会③ 活動事例報告書について、次年度の方向性の確認</li> <li>・50分授業の実施(小学5、6年)4日間</li> <li>・生活に関するアンケート(児童・生徒、保護者) 家庭学習及びメディア等の使用状況把握</li> <li>・本年度の取組についてのアンケート等(児童・生徒、保護者、教職員)</li> <li>・活動事例報告書の完成 ※3月に関係者へ配布予定</li> <li>・舟橋小中学校一貫教育推進協議会② 3か年の取組報告及び次年度以降の取組や計画について</li> </ul>

## (3) 取組の成果

- ・ 9年間を通して育てたい子供像を明確にし、小中学校の教職員が授業観を同じくして、教育課程の編成やカリキュラムの作成、それに伴う合同授業や交流活動に協働で取り組むことで小中学校双方に大きな変容がみられるた。児童には、小学校卒業以降を見据える意識や自分が理想とする中学生のイメージが生まれてきた。一方、生徒には、小学生との関わりを通して自らの成長だけでなく、有用感や自己肯定感を実感する機会が与えられ、さらに向上しようという意欲の喚起につながっている。また、小中学校の教職員には、9年間を通じた子供の成長を意識することの大切さや実際の児童生徒の姿から見えてくる発達段階への理解が深まった。さらに、中学校の教員が、小学校での育ちを知り、そこからの積み上げを意識して、中学校へ入学してくる生徒を受け止め、小学校の教員との間に構築した連携体制を生徒理解に生かすことで、中学校への移行に関する指導支援がスムーズにできるようになった。
- ・ 小中一貫教育においては、特に9年間の連続性を大切にした教育活動を実現することが効果的であると見え、実行可能な教科・領域を検討・重点化し、小中一貫カリキュラムを作成した。特に「ふなはし『学び合い』スタイル」で段階的言語スキルを重視し、発達の段階や習熟度の違いを生かした合同学習や異学年交流を位置付けたり、読書活動を学校生活の基盤とし、中学1年生で読み聞かせ活動を実施したりしたことは、思考力・判断力・表現力の育成において効果的な一助になった。
- ・ 総合的な学習の時間や地域学校保健委員会における小中合同学習や、地域に貢献する小中合同ボランティア等の交流活動を通して、児童は「目標とする中学生像」を、生徒は自らの成長を実感することができた。
- ・ 小中合同学習では、発達の段階による見方や考え方、表現の仕方の違いが新たな「気付き」につながった。児童にとって生徒は学びの型を実践するよい手本であり、今後目指す具体的なイメージとして捉える様子がみられた。一方、生徒は、児童の発言を受け止めた上で自身の考えを発信することにより、これからの社会で、さらに必要になってくる対話型のコミュニケーション能力に高まりがみられた。  
前出の9年間を貫く学びの型「ふなはし『学び合い』スタイル」や段階的な言語活動スキル「〇〇上手になるう」を日々の授業に取り入れ、ホワイトボードや付箋、電子黒板等のツールを活用することで、協働学習が活性化した。そして、異学年交流においては、ねらいや目指すスキルが異なっても、共有する学びの型があるので、発達の段階や習熟度の違いを生かした学び合いが可能となった。その結果、多くの児童生徒が自身の伸びや変容をより実感することが、できるようになってきている。
- ・ 部活動体験等の交流活動や小学校での50分授業、学級担任以外の教科担当者がもつ授業の設定、英語科や保健体育科における中学校教員の乗り入れ授業で、児童に中学校生活の具体的なイメージと見通しが生まれたことが、不安の軽減につながり、「中1ギャップ」から、「中1ステップ」へ転換する一つの足がかりとなっている。

## (4) 今後の取組予定

- ・ 9年間を見通した教育課程の編成や小中一貫カリキュラムについては、実践後の振り返りや児童生徒の成長の様子からも成果を得ることができたと思われる。今後は、学力向上の軸ともなる「しっかり見聞きし、よく考える子供」（小学校）、「知る喜び、分かる喜びを求めて学び合う生徒」（中学校）の育成を目指し、小中学校教職員がゴールイメージを共有して、発達の段階に応じた学びを児童生徒に保障するために、連携体制の見直しや明確な役割分担が大切になる。また、段階的に習得させたい言語活動スキルを重視した「ふなはし『学び合い』スタイル」や「〇〇上手になるう」については、小中学校教員の共通理解のもと、今後もさらなる定着を図っていく。  
カリキュラムの連続性を意識し、小中学校の接続をよりスムーズにするためには、PDCAに基づき、本実践の中で特に効果性の高かった実践、例えば9年間を見通した「キャリア教育」等については、より精選し、各学年でどのような力を付けるのかをより明確化しながら、継続して取り組んでいきたい。そのためには、管理職や教務主任の統括のもと、校務分掌に小中一貫教育にかかる担当者を位置付け、定期的かつ組織的な無理のない連携体制を構築していく必要がある。
- ・ 効果性の高かったワークショップ型小中合同教員研修等は、次年度以降も継続し、教職員間の小中一貫教育についての共通理解や9年間を通じた子供の育ちにかかる見識を高める中で、チームとして学び合う機会を確保していきたい。

## 事業成果報告書

## 〔取組Ⅱ〕市町村教育委員会等による小中一貫教育の域内全域での導入に向けた取組

通し番号

Ⅱ-2

1. 市町村教育委員会等の名称 : 高岡市教育委員会

住所 : 富山県高岡市広小路7-50

代表者職・氏名 : 教育長・米谷 和也

2. 取組の名称 : 高岡市小中一貫教育推進事業

3. 取組Ⅱの実績

(1) 取組のねらい

先進事例の調査研究及びモデル校等での実践研究を行い、その成果や課題を検証し、域内全域の中学校区における小中一貫教育の推進に向けた体制整備を行う。

(2) 取組Ⅱの実施状況(平成30年度)

6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中連携推進委員会(取組内容の協議)【モデル校】</li> <li>・授業公開週間、学校訪問研修会での授業研究【モデル校】</li> <li>・国吉小学校における音楽科の乗り入れ授業(通年)【モデル校】</li> <li>・定塚小学校における外国語活動の乗り入れ授業(通年)</li> <li>・東五位小学校における外国語活動の乗り入れ授業(通年)</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学級の合同学習【モデル校】</li> <li>・児童生徒合同委員会(健康課題に関する協議、啓発活動)【モデル校】</li> <li>・小中連携推進委員会(取組内容及びスケジュールの協議)【市教委・モデル校】</li> <li>・小中合同研修会(学習指導、生徒指導、小中合同行事、小中連携の活動等のテーマについて協議)【各中学校区 ~8月】</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中全体研修会(全国学力・学習状況調査の結果分析と授業等の公開に向けた協議)【モデル校】</li> <li>・児童生徒理解研修会(小中連携を生かした生徒指導について協議)【モデル校】</li> <li>・小中連携教育合同研修会(「小中連携教育の在り方について」講師:金沢大学教授 松本謙一 先生)【モデル校】</li> <li>・小中連携推進委員会(授業等の公開や視察計画について協議)【モデル校】</li> <li>・外国語教育研修会(「小学校英語における子供の学び-中学1年で大切にしたいこと-」講師:富山大学 教授 岡崎浩幸 先生)</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥取市立福部未来学園視察</li> <li>・小中合同挨拶運動【モデル校】</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中合同避難訓練(連携を生かした安全指導の在り方を検討)【モデル校】</li> <li>・部活動体験会【モデル校】</li> <li>・合唱見学会(小学校5・6年生が中学校で合唱を鑑賞)【モデル校】</li> <li>・小野市立河合小中学校視察</li> <li>・小中連携推進委員会(先進校視察の成果や今後の取組を協議)【モデル校】</li> <li>・富山県小中一貫教育連絡協議会(本市の取組内容の報告と協議)</li> </ul>

11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中一貫教育推進事業「小中連携による授業等公開」（小中合同保健委員会、音楽科と総合的な学習の時間の授業公開、モデル校の取組概要説明、小中連携教育合同講演会（講師：金沢大学 教授 松本謙一 先生）、「国吉小中学校連携教育の歩み」（冊子）配付）【モデル校】</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学級の合同学習【モデル校】</li> <li>・高岡市小中一貫教育講演会（「小中一貫教育をめぐって」講師：千葉大学 特任教授 天笠茂 先生）</li> <li>・高岡市教育将来構想市民懇談会【各中学校区 ～1月】</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・京都市立凌風小中学校視察</li> <li>・京都市立大原小中学校「小中一貫教育小規模校全国サミット」参加</li> <li>・小学校6年生に対する中学校教員による出前授業【各中学校区 ～2月】</li> <li>・富山県小中一貫教育連絡協議会（本市の取組状況の報告、協議、講演）</li> <li>・小中連携による小学校外国語活動合同研修会【定塚小学校、東五位小学校】</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校新入生説明会【各中学校区】</li> <li>・長浜市立余呉小中学校、市川市立塩浜学園視察</li> <li>・羽島市立桑原学園「義務教育学校桑原学園公開研究会」参加</li> <li>・「国吉小学校・国吉中学校一貫教育への歩み」発行（平成30年度 研究のまとめ）【モデル校】</li> <li>・小中合同アクションプラン委員会（次年度のアクションプランについて協議）【モデル校】</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中連携推進委員会（次年度に向けた小中一貫教育推進計画について協議）【モデル校】</li> <li>・本事業の成果と課題のまとめ</li> </ul>

## (3) 取組の成果

<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校の教員が乗り入れ授業や互見授業等を通して、小中の系統的な学習指導について理解を深めることができた。</li> <li>・先進校視察及びモデル校における小中連携推進委員会や小中全体研修会、各中学校区ごとの小中合同研修会等の実施により、各校区の実態に即した効果的な小中連携の在り方について協議し、小中一貫教育に向けた体制整備を進めることができた。</li> <li>・モデル校における実践研究及び授業等の公開や講演会の開催、「一貫教育の歩み」の発行を通して、その成果や課題、展望を明らかにすることができた。</li> <li>・外国語活動の乗り入れ授業実施校における実践研究及び小中連携による小学校外国語活動合同研修会、さらに市教委主催の外国語教育研修会の開催を通して、小中の接続に配慮した外国語の指導について理解を深めることができた。</li> <li>・高岡市小中一貫教育講演会や高岡市教育将来構想市民懇談会を開催し、教職員や保護者、市民の小中一貫教育に対する理解が促進された。</li> </ul>
--

## (4) 今後の取組予定

<ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年4月、国吉小学校と国吉中学校を義務教育学校に改編し、本市の小中一貫教育のモデル校として、先導的な取組を推進する。</li> <li>・中学校区ごとに小中一貫教育推進のための組織を設け、目指す子供像を共有するとともに、義務教育9年間を見通した効果的な取組や活動を構想し、実践する。</li> <li>・小中学校の教員の相互乗り入れ授業や小中連携の教職員研修等を一層推進し、児童生徒理解を深め、小中学校の円滑な接続に配慮した指導の充実を図る。</li> <li>・校区の実情に応じた合同行事や合同学習、児童会・生徒会活動の活性化を図り、交流活動を促進する。</li> <li>・市民懇談会等を開催し、効果的な小中一貫教育の推進について、保護者や地域の一層の理解を得ながら体制整備を進める。</li> </ul>
--